

## 復興事業にともなう発掘調査に対する 奈良文化財研究所の取り組み 2

東日本大震災の被災各地では、復興事業にともなう多数の発掘調査がおこなわれ、全国の地方公共団体から派遣された多くの埋蔵文化財専門職員の方々がその支援にあたっています。奈良文化財研究所としても、派遣要請が出された場合、その内容に応じて即座に職員を派遣する体制を整えています。今年度上半期には、福島県広野町や宮城県気仙沼市に職員を派遣し、発掘調査やその後の出土遺物等の整理報告についての支援をおこないました。この様子については、49号に記しています。

この取組の一環として、2013年11月から2014年1月のおよそ3カ月間、福島県南相馬市の椴木沢C遺跡および横手古墳群の発掘調査支援のため、数名の研究員を交代で派遣しました。前者は古代の製鉄炉や木炭窯等を含む製鉄遺跡、後者は古墳時代の円墳とともに記録保存対象の遺跡です。それぞれで遺構の検出、記録作業をおこない、3Dレーザー測量等遺構記録の効率化をはかる技術も導入しました。

日頃奈良で調査しているわれわれの多くは、東北地方での発掘は未経験でしたが、地元の調査員の方々と協力しながら調査をおこないました。様々な組織に属する専門職員と一緒に調査をおこなうことは、現在の特殊な状況下でのことではありますが、多くの「目」で遺跡を見つめ議論することで、調査をより効率的に進めることができたと思います。

被災地の復興事業はむしろこれからが本番です。今後も奈文研による支援事業を継続していく予定です。  
 (都城発掘調査部 芝 康次郎)



椴木沢C遺跡での調査の様子